

熊本中央病院を受診された患者さま、研究対象者のみなさまへ

当院では下記の臨床研究を実施しております。

以下の臨床研究に関しては、個人情報情報を匿名化した上で学会、研究会等への利用をさせていただきます。

内容をご確認いただき、研究対象者となることを希望されない方は下記お問い合わせ先へご連絡ください。

研究課題名	ホルモン感受性転移性前立腺癌の治療実態に関する前向き観察研究
研究責任者	泌尿器科 医師 濱田真輔
本研究の目的・意義	転移性前立腺癌に対する標準治療は内分泌治療である。欧米では内分泌治療に感受性がある段階の転移性前立腺癌(mHNPc)に対しアンドロゲン遮断療法(ADT)にアビラテロンやドセタキセルを併用することの有効性が示されている。しかし、日本人においてはまだ確立したエビデンスは存在しない。本研究では新規にmHNPcと診断された患者について通常診療における治療実態を前向きに調査する(PART1)。さらに、2014年5月から本研究承認日までに既に治療開始された患者についてもその後の治療内容、転帰について調査し、治療中の患者については前向きにデータを収集する(PART2)。そして初期治療からアビラテロンやドセタキセルをADTと併用した患者の全生存率をADT単独治療を受けた患者と比較することでどのような患者群がアビラテロンやドセタキセルの早期投与の恩恵をうけるかを同定することを目的とする。なお本研究は、京都大学大学院医学研究科泌尿器科学教室が主幹となり、当院泌尿器科は共同研究施設として行う。
研究予定期間	委員会承認後(2019年2月)～2025年1月
該当資料・データ	対象となる患者さん:2019年2月から初診時に転移を有する前立腺癌(stage D2)で研究参加施設にて治療を開始する患者さん、もしくは2014年5月から本研究開始日までの間に研究参加施設で初診時に転移を有する前立腺癌(stage D2)に対して治療を開始された患者さん。 利用する情報:電子カルテに記載のある診療記録・検査データを利用します。
個人情報の取扱い	診療録から得られたデータから、氏名、生年月日、手術日など個人情報を識別可能な症状を削除し、個人情報とは無関係の番号をつけ、研究機関毎に連結可能匿名化を行います。 個人識別情報と付加番号の対応表は研究機関毎に作成し、各機関の個人情報管理者が厳重に管理し、共同研究機関並びに解析担当者には渡しません。データ解析の際は、匿名化後のデータのみを扱うため、個人を特定できる情報は含みません。研究の成果を学会、誌上に公開する際も個人を特定できる形では公表しません。
共同研究機関	京都大学大学院医学研究科泌尿器科学教室(主幹)
本研究の資金源	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話:096-370-3111(代表) 担当者:濱田 真輔(泌尿器科)